

研究発表申込フォーム

氏名：八尾 廣

氏名のローマ字表記：YATSUO HIROSHI

所属：東京工芸大学工学部工学科建築学系

専門分野：建築学

発表のタイトル（日本語）：

モンゴルにおける日本人抑留者の描いた建築図面—国立公文書館所蔵の社会主義時代における建築・都市関連図面の読み取りから

発表のタイトル（英語訳）：

Architectural Drawings by Japanese Internees in Mongolia: Reading Social-Era Architectural and Urban Planning Drawings from the Collections of the National Archives

発表要旨（日本語で 600 字～800 字程度）：

モンゴル国ウランバートルには社会主義時代に建設された集合住宅が現在も数多く残り、現役で使用されている。近年は中心部から順に断熱性能向上のため改修工事が進められており、今後も主要な都市風景の一部として存続すると考えられる。これらは旧ソ連の建築家により設計され、当初はレンガ造、その後は WPC（Wall Precast Concrete）工法の標準型集合住宅が都市全域に数多く建設されたものである。計画的に導入された建築計画や都市計画が近現代モンゴルにおける定住の文化に大きな影響を与えた。

本研究では、モンゴル国立公文書館に所蔵される社会主義時代の集合住宅設計図面を手掛かりに、その計画意図を読み解くとともに、現地調査による住戸の実態との比較を通じて、輸入された住宅形式をモンゴルの人々がどのように受容し、間取りを生活に合わせ改変してきたのかを分析し、モンゴルにおける定住の住まいのあり方を考察している。

その研究過程で、1946～47 年に作成された図面群の中から、日本人抑留者の自筆と思われる署名が数多く確認された。署名は図面隅部の責任者や主任技師、設計者等の情報を示す小表の最下欄に記されており、「複写」を意味するロシア語 **копировал** の右側に、日本人によると推定される筆跡で記されている。これは、ソ連建築家による鉛筆原図を、日本人抑留者がインキングによってトレースし、保存用図面を作成する屋内労働に従事していたことを示唆する。発見された図面は平面図・立面図から設備図・詳細図まで多岐にわたり、現在までに署名のある図面は 47 枚、確認された署名者は合計 9 名に及ぶ。本事実、日本人抑留者研究に新たな視角を提供するものと考えられる。

本発表では、モンゴル国立公文書館に所蔵される社会主義時代の建築・都市計画図面の概況を報告するとともに、日本人抑留者が関与した建築図面を紹介し、当時の首都建設の多様な側面について考察する。